



信太の森ニュース

No. 40
2022年1月31日

文責 田丸八郎



木道の付け替え工事が終わった惣ヶ池湿地

信太山丘陵の大野池では、今堰堤の漏水補強工事が行われており、水が抜かれてカンムリカイツブリやミコアイサなど冬の渡り鳥の観察ができない状況です。

大野池では、10年前の2012年にも堰堤の耐震補強工事のために水が抜かれました。その時は、私たちの運動を応援するかのごとく7羽のコウノトリが大野池にやって来た年でもありました。

その年は、信太の森FANクラブが特定非営利活動法人として出発した年でもあり、私たちが「信太山丘陵に里山自然公園を」と運動をした結果、請願署名が採択されて「信太山丘陵市有地の保全と活用検討委員会」が発足した年でもありました。

信太の森FANクラブは今年6月25日に設立10周年を迎えることとなります。

FANクラブはこの間、「保全と活用検討委員会」「ワークショップ」を経て、その結果創設された「公園協議会」に参加する一団体として里山自然公園予定地の保全活動と併せ、大阪みどりのトラスト協会が管理する「惣ヶ池湿地」の保全活動も行ってきました。

今年9月以降、公園予定地を貫通する車道の拡幅工事も始まり、「自然公園」西エリアの正式開園まで後2年。活動拠点となる管理棟のレイアウトもほぼ決まりました。

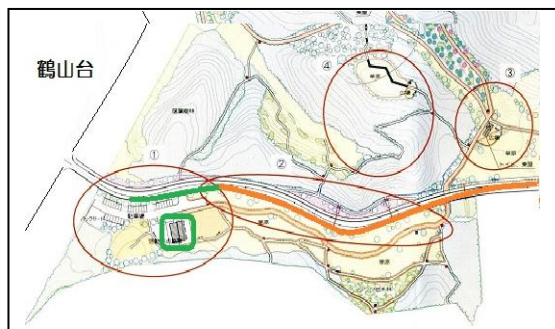
惣ヶ池湿地では、3年に亘る「和泉市水仙基金」の助成を得て、木道整備事業がほぼ完了し木道が復活しました。

NPO法人 信太の森FANクラブ
事務局：〒594-0013 大阪府和泉市鶴山台3丁目4番1-202
電話 0725-45-7357 090-1225-9159
E-mail tamahati@amber.plala.or.jp

公園協議会の動きと活動

7月22日から暫定開園となりましたが、9月より公園内を通る信太5号線の拡幅工事を前に、拡幅道路及び公園管理棟建設予定地の埋蔵文化財の発掘調査（下図：緑線で表示）が行われました。発掘調査終了後、道路沿いのアラカシ林の一部伐採、抜根が行われ、本格工事に向けて整備がすすめられています。

来年度当初から本格的な道路工事始まる予定ですが、現在保全活動日に使用している駐車場が、工事関係車両の出入り等で使用できなくなるため、同場所のアラカシ林を一部切り開いて駐車場を拡げる作業が年明けから行われました。



近畿最古級の青銅鏡が出土

里山自然公園内の管理棟建設予定地辺り（上図：左の円内）は、弥生後期の高地集落を形成していた惣ヶ池遺跡の埋蔵文化財包蔵地域とされており、前項で触れた信太5号線拡幅工事に先立って発掘調査が7月から10月まで行われました。この調査結果については、10月27日に信太の森ふるさと館において、和泉市教育委員会文化財振興課の上田裕人氏により報告講演会が行われました。

発掘調査の結果、竪穴建物4棟、溝1条、柱穴約200基で、出土遺物として小形仿製鏡1面、石包丁1、石鏃^{やじり}1、弥生土器破片（弥生後期前葉～中葉）が発掘されました。

この発掘調査で特筆されるのは、車道工事予定地で近畿最古級、泉州では唯一という小

型仿製鏡（青銅鏡：直径6.4cm、厚さ1～1.3mm）が出土したそうです。



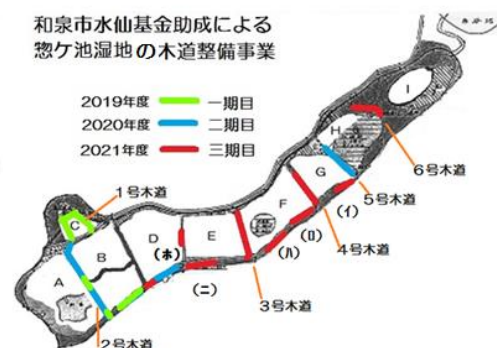
この小型仿製鏡は、現在保存処理が行われており、今後「いずみの国歴史館」で保管展示される予定だそうです。

惣ヶ池湿地：第3期木道整備

公財）大阪コミュニティー財団による「和泉市水仙基金」の助成を得て惣ヶ池湿地の木道整備を行ってきましたが、今年度も9月から12月上旬まで第3期の木道整備を行いました。

これにより湿地内を通る木道は1号から6号まで6本（合計：121m）、湿地の淵をとおる園路（63m）総延長：183mを整備したことになります。（下図参照）

旧の木道で残り1本を残していますが、観察路として当面必要性がないことから手をつけないことにしました。



今回整備した3号木道では、アギナシが、4号木道ではハンゲショウが間近で観察できるようになりました。



3号木道：施工前



施工後



4号木道：施工前



施工後

5号木道は、昨年奥の池の北面渚に作りましたが、同じ池の渚で格納庫の横に新たに6号木道を作りました。更に湿地の渚を通る園路に杭を使用しない木道も整備しました。



格納庫横に新たに作った6号木道

惣ヶ池湿地に新たな絶滅危惧種が

観察会で案内するとき、参加者に関心がある植物は花びらがある植物が中心になります。イネ科やカヤツリグサ科の植物はあまり覚えて貰えません。

赤や黄色の花びらを付けた草花は葉の形なども加わって比較的覚え易いのですが、イネ科、カヤツリグサ科は殆どの葉が線形なだけに、どれも同じように見えて覚えようとする気力をそがれてしまいます。

10月24日の定例観察会は会員ばかりの観察会ということもあって、イネ科やカヤツリグサ科の植物を覚えて貰おうと考えて案内することにしました。

そうした考えのもとに惣ヶ池湿地の1号木道周りの線形植物を説明しながら進んでいるとき、イヌノハナヒげに混じって目を引くカヤツリグサ科の植物がありました。

コシンジュガヤという植物で、これまで惣ヶ池湿地の記録には無い絶滅危惧種でした。それも1本や2本ではありません。

惣ヶ池湿地整備後21年になりますが、当初(2001年)の調査記録や2015年に筆者が調査した記録に無い植物です。もともとあったものか、それとも靴の底にくっついてきたものかどうか。



惣ヶ池湿地で初確認されたコシンジュガヤ

惣ヶ池湿地でスズメバチ被害

10月10日、惣ヶ池湿地の定例活動日に参加者3名がスズメバチに刺され、救急車で病院へ搬送されるという事故がありました。

刺された人の内2名は1, 2か所を刺された後退して待機しましたが、Iさんは蜂の巣付近でうつ伏せになりハチの襲来を防ごうと必至で我慢している状況で、救助の手立てがないと判断して119番へ救助をお願いしました。

15分後に救急車4, 5台と消防車1台が到着し、1ヶ所を刺されたOさんは250m程離れた救急車待機場所まで自力で歩き、残る二人は救命ボードで搬送された後、救急車でそれぞれ病院へ搬送されました。

今回の事故では、刺された箇所が腫れが引かないという人もありましたが、3人共命に

別状なく現在では回復されています。

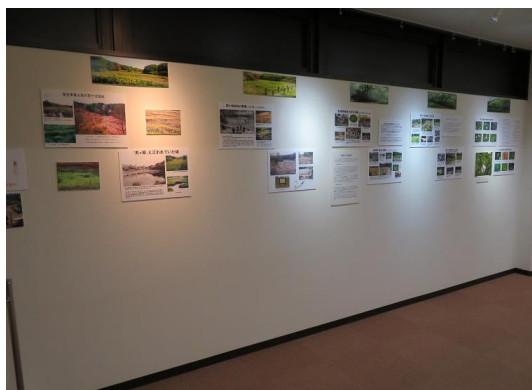
惣ヶ池湿地での蜂による事故は2回目です。今後の対策として、女王蜂が動き出す5月頃から鉢が巣を造りそうな場所に「蜂の巣の偽物」を園路に限らず、巣作りしそうな場所に設置すること、9月から11月の警戒期には蜂除けスプレーを準備しておく必要性を感じました。

惣ヶ池湿地の20年展

惣ヶ池湿地が整備されてから昨年で20年になります。昨年、信太の森ふるさと館では「惣ヶ池湿地の20周年展」と「惣ヶ池遺跡展」(和泉市文化振興課)をコラボで開催が計画されていましたが、新型コロナ感染拡大中であり計画は中止されました。

今夏行われたパラリンピックの後、新型コロナ感染者がやや減少したこともあり、昨年の計画が実施されることになりました。9月25日～11月20日まで開催されることになりました。

惣ヶ池湿地に関わる信太の森FANクラブは、この企画に資料提供、展示物作成、展示等で協力してきました。



特に湿地整備前後の資料については、大阪みどりのトラスト協会より、整備前の自然の風景は当初から当クラブ会員で「野ばらで遊ぶ」の著者であり写真家の高村敏子さんから整備前の写真を提供していただきました。

同時開催の「惣ヶ池遺跡展」では前掲の発掘に関する写真が展示されました。

高木に架かる枯れ枝落とし

台風で大きな枝が折れたまま高所に架かり、折れた枝が枯れて道端に落下しているのが目立ちました。たまたま下に人がいなかったので被害も無く済んだものの直撃していたら大変な事故になっていたと思います。

惣ヶ池湿地の南出入り口の道端に根際から2本に分かれ、1本の幹回りが2m以上にもなる大きなアベマキがあります。その高いところに折れた大きな枝が架かり、これが人を直撃したらひとたまりもありません。事故にならないうちに取り除くことにしました。

その高い所に如何にしてロープを掛けるか。ドローンを含め種々考えた結果、弓を作り、矢に釣糸を付けて射る方法で実施しました。最初は旨くいかず、ゴルフボールに糸を付けてテニスのラケットで打ち上げる方法も旨くいきません。弓と矢を大きなものに作り替え、2本目の矢で成功。

1月18日公園協議会活動の後、数人に応援をお願いし、釣り糸等で登攀用ザイルを引上げ、6人でザイルを引いて木を揺さ振り、



一旦枝を落としたものの枝が幹の枝にかみ合うように掛りお手上げ。最後は米田さんの発想で籠を吊り上げ、籠に枝の片方を入れて引上げることで枝のバランスを崩して旨く落すことが出来ました。これで落下による事故の心無くなりました。

何十年ぶりの弓矢作りと射的。童心にかえり楽しませて貰いました。